

「片付け」場面における熟達した保育者の実践知

Practical Knowledge of Experienced Preschool Teachers during Clean-up Time

内藤 由紀, 山内 淳子

Yuki NAITO, Junko YAMAUCHI

概要

「片付け」場面の映像を視聴した後の X 園の保育者の語りをもとに、片付け場面における熟達した保育者の実践知について考察することを目的とした。具体的には、発話記録を文字化し、同一のテーマについて語っていると思われる部分で区切り、それらを先行研究の分析カテゴリーとその下位概念に沿って分類していった。既存の分析概念のうち、X 園の保育者の語りに該当する部分が認められたのは、「子どもの遊びに共感する」「子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする」「次の活動（魅力的な物）を提示する」「片付けている子を褒める」であった。新規に設定された分析概念は、「片付けの時間までに子どもが十分満足いくまで遊べるようにする」「片付けも遊びの一部としてできるようにする」「仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする」「年上の子どもへの憧れの気持ちをいかす」「片付けの後の気持ちよさに気付かせる」「なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる」「一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う」「子どもにわかる表示をするなど片付けやすい環境をつくる」「繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする」であった。

I. 研究の目的

本研究の目的は、「片付け」場面の映像を視聴した後の保育者の語りをもとに、片付け場面における熟達した保育者の実践知について考察していくことにある。

ここで、実践知とは、実践の場で獲得、生成され、領域固有、場面固有に働く知識であり、言語化した説明は難しく、本人自身にも自覚されない暗黙知のような性格をもつものである（秋田 1991）。それは、日々瞬間瞬間に何らかの判断をし、その判断に基づいて保育活動を行っている保育者の、その瞬時の判断を暗黙的に方向付けるも

のであるとされる（秋田 2006）。

本研究が「片付け」場面に注目したのは、次の理由による。片付けは、幼児の基本的な生活習慣の確立が目指される幼稚園、保育所において、どの園でも毎日行われる園生活には不可欠な活動の一つである（砂上 2009）。その一方で、子どもにとっては、自分の気持ちをコントロールすることが求められる場面であり（砂上 2009）、保育者と子どもの内面で葛藤が起きやすい場面でもある（箕輪 2009）。安見ら（2009）が指摘する通り、保育者が場面転換を意図して片付けを促しても、子どもは容易に受け入れるわけではなく、子どもの言動を見ながら、保育者は実践知を駆使して、

子どもに受け入れられるような手順や方略を編み出していくと考えられるのである。

こうした「片付け」場面における保育者の実践知に注目した研究としては、「片付け」場面の映像を視聴した後の保育者の語りの分析を通して、片付け場面における保育者の実践知と園環境やカリキュラムとの関連を明らかにした砂上ら(2009)の研究や、同様の方法で、片付け場面における保育者の実践知を規定する要因について検討した安見ら(2009)の研究などが既にある。

しかしながら、いずれの研究においても、分析対象となった保育者の語りは詳細に示されていない。そのため、保育者を目指す学生や、経験年数の少ない保育者が、保育実践の改善を試みようとする際に、それらの語りにみられた実践知を具体的に参考にすることはできない。

よって、本研究では、「片付け」場面の映像を視聴した後の保育者の語りを詳細に示しつつ、そこに認められる、片付け場面における、保育経験の豊富な熟達した保育者の実践知について考察していくこととした。

Ⅱ. 研究の方法

1. 調査協力者

調査協力者は、山梨県内のX幼稚園(以下、X園)に勤務する保育者A、B、Cの計3名である。3名の保育者の現在の担当学年、保育経験年数は表1の通りである。いずれも保育経験の豊富さという意味で、熟達した保育者であると言える。

表1 保育者の担当学年・保育経験年数

	担当学年	保育経験年数
保育者 A	3 歳児	約15年
保育者 B	4 歳児	約30年
保育者 C	5 歳児	約30年

2. 調査時期

調査時期は、2011年6月23日である。

3. 調査手続き

砂上ら(2009)の研究方法にならい、3名の保育者に同時に教員研修用ビデオの中の「片付け場面」5分程度を視聴してもらい、その内容について、自分だったらどのように関わるかなど、自由に意見を出しあってもらった。ただし、砂上ら(2009)が用いたビデオは入手不可能であったため、本調査では別のビデオを用いた。今回用いたビデオは、文部科学省初等中等教育局幼児教育課が監修した教員研修用ビデオ「幼児理解にはじまる保育③ぎゅうにゆうできたよ」である。保育者に視聴してもらった「片付け場面」の概要は表2の通りである。視聴後の保育者の語りは、了解を得てボイスレコーダーにて録音した。

4. 分析方法

録音した保育者の語りを文字化した。書き起こした保育者の語りを、同一のテーマについて語っていると思われる部分で区切り、その後、それらを砂上ら(2009)の分析カテゴリーとその下位概念に沿って分類していった。いずれの分析カテゴリー・下位概念にもあてはめられないと思われる

表2 保育者に視聴してもらった「片付け場面」の概要

【4歳児6月上旬の片付け場面における新任保育者の子どもたちへの関わり】

遊びもひと段落して、そろそろ片付けの時間になり、「みんなで力を合わせてきれいにしよう。」と保育者が子どもたちに片付けることを呼び掛けた。他の子どもたちが片付けをしている中、モモちゃんは片付けようとしな。ままごと遊びで使っていたエプロンも付けたままである。保育者は、「スカートを脱いでください。」と声を掛けるが、モモちゃんは、はずすのを嫌がる。片付けが終わり、クラスで集まって手遊びをした後、保育者は、ままごと遊びをしていなかったにもかかわらず、ままごとコーナーを最後まで片付けてくれていた子どもたちを褒め、明日から自分が遊んだ場所以外のところもみんなで手伝い、片付けようと、子どもたちに呼び掛けた。「友だちがお手伝いしてくれるからって、片付けない人……だめよ。」という保育者の言葉に、「はい。」と無邪気に返事をしたモモちゃんに保育者は、「よいお返事をするところではない。」と声を掛けた。

自分が片付けていないことにモモちゃんは気付いていないと保育者は感じ、片付けなければならないという気持ちをどう育てていったらよだろうかと考えている。

ものについては、新たなカテゴリー・下位概念を設定していった。その後、カテゴリーごと、保育者の語りを詳しく考察していった。

なお、砂上ら（2009）の研究では、文字化した保育者の語りを、句読点によって区切られ、かつ、意味内容が1つのテーマに言及している文ごとに区切り、文数をカウントするといった分析がなされていたが、本研究では、分析対象となった保育者の語りをまとめた形でそのまま示しつつ考察を加えていくことを目指したため、句読点を基準に細かく区切っていくという方法はとらなかった。

Ⅲ. 研究の結果と考察

1. 保育者の語りの分類結果

砂上ら（2009）の分析カテゴリーとその下位概念にそって分類した結果は表3の通りである。表3の中で◆を付けたものは、既存のカテゴリー・下位概念のいずれにも該当しなかった内容をもとに今回新たに設定したカテゴリー・下位概念である。また、砂上ら（2009）の既存カテゴリー・下位概念のなかには、X園の保育者の語りのどの部分も該当しなかったものも多数あったが、それらもあわせて表3に示した。それらについては、「X園に該当」の欄を空欄とした。

既存の分析概念のうち、X園の保育者の語りに該当する部分が認められたのは、「子どもの遊びに共感する」「子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする」「次の活動（魅力的なもの）を提示する」「片付けている子を褒める」であった。

新規に設定されたカテゴリーは、「子どもたち同士の関係をいかす」「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」「片付けやすい環境をつくる」「日々の積み重ねを大切にする」であった。「子どもたち同士の関係をいかす」については、「仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする」「年上の子どもへの憧れの気持ちをいかす」といった下位概念が設定された。「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」については、「片付けの後の気持ちよさに気付かせる」「なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる」「一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う」といった下位概念が設定さ

れた。「片付けやすい環境をつくる」については、「子どもにわかる表示をするなど片付けやすい環境をつくる」といった下位概念が設定された。「日々の積み重ねを大切にする」については、「繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする」といった下位概念が設定された。

2. カテゴリー「子どもの遊びを認める」に分類された保育者の語り

カテゴリー「子どもの遊びを認める」に分類された保育者の語りは、表4の通りである。

「子どもの遊びに共感する」という概念に分類された語りにおいては、特に「スカート（＝エプロン）を絶対にとらなければいけないのかな……〇組さん（＝年少）の時点であつたら、……その子（の）気が済むまで付けておいてあげて、活動に支障がなければね」という言葉に象徴的にあらわれているように、子どものまだ遊んでいたいという気持ちを受けとめ、可能なかたちでそれを尊重するという保育者の実践知がうかがわれる。それは特にまだ生活習慣が完全に確立されていない3歳児への関わりにおいて重要であると考えられているようである。さらに、必ずしも片付けを優先するのではなく、状況によっては、保育の計画や活動を柔軟に変えていくことも必要であるという考えもうかがわれた。

「子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする」という概念に分類された語りにおいては、特に「〇〇ちゃんと〇〇ちゃんはこんな遊びをしているように、ある子どもがやっていた遊びを他の子どもたちに紹介するというかたちで、子どもの遊びを認めていくという保育者の実践知がうかがわれる。また、「明日もっと違う材料を用意しておくから、またもっとこれにバージョンアップさせて、何か作ろうか」という言葉にあらわれているように、それまでやっていた遊びを後でさらに楽しく発展させながらまたすることができるといった期待を子どもがもてるような言葉掛けをするという保育者の実践知がうかがわれる。こうした配慮は、数日間かけて一つの遊びをより発展させたり、深めたりしていくことができる5歳児への関わりとして重要であると考えられているよう

表3 保育者の語りの分類結果

カテゴリー	概念	X園に該当
子どもの遊びを認める	子どもの遊びに共感する	○
	子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする	○
	子どもの遊びに参加する	
	遊びを受けとめた言葉を掛け、遊びに参加する	
	◆片付けの時間までに子どもが十分満足いくまで遊べるようにする	○
	◆片付けも遊びの一部としてできるようにする	○
片付けるように働きかける	片付けであることを明示する	
	抱っこ・おんぶをして移動させる	
言葉掛けを工夫する	子どもに共感してもらう	
	片付けであることを明示しない	
	尋ねる	
次(明日)の活動への期待を持たせる	次の活動(魅力的な物)を提示する	○
	明日への期待をもたせる	
遊びから気持ちを切り替えさせる	別の活動に誘う	
	友だちの存在を知らせる	
	保護者の存在を知らせる	
片付けが行われていることの気づきを促す	他の子どもの力を借りる	
	片付けている子を褒める	○
	雰囲気を感じさせる	
	曲をかける	
◆子どもたち同士の関係をいかにす	◆仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする	○
	◆年上の子どもへの憧れの気持ちをいかにす	○
片付けを進める際の方略や手順を工夫する	働きかける順序を考慮する	
	保育者間で連携する	
	ビデオを見せる	
	時間を配慮する	
◆片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする	◆片付けの後の気持ちよさに気付かせる	○
	◆なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる	○
	◆一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う	○
◆片付けやすい環境をつくる	◆子どもにわかる表示をするなど片付けやすい環境をつくる	○
◆日々の積み重ねを大切にす	◆繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする	○
その他	迷いや難しさを語る	
	経験を振り返る	
	方略を組み合わせる	
	保育形態に言及する	

ある。

「片付けの時間までに子どもが十分満足いくまで遊べるようにする」という概念に分類された語りにおいては、特に「子どもたちがどの程度……一人ひとりが満足した(か)、……遊びこんだかってことによっても、自発的にお片付けをしよ

うという気持ちが違ってくる」という言葉に象徴的にあらわれているように、片付けを促したり、片付けの必要性や大切さを考えさせたりする前の段階として、遊びに区切りをつけ、気持ちよく片付けに移っていきけるよう、まずは子どもがそれまでに十分満足できるまで遊べるように配慮すると

表4 カテゴリー「子どもの遊びを認める」に分類された保育者の語り

子どもの遊びに共感する

- 今モモちゃん（ビデオに登場する年中の女兒）を見てふと思ったんだけど、やっぱりどの学年でも、遊びを中断して片付けなければならないってことがありますよね、でもそのときの子どもの気持ちを、必ず先生が酌んであげることが大切だなんて思っていました。
- （お片付けの時間になったからと、年中の女兒に、おままごと遊びの中でしていたエプロンをとるよう保育者が指示する場面について）スカート（＝エプロン）を絶対にとらなければいけないのかな。その子が自然にもしかしたらとる時期、……4歳だからどうかかわらないけど、○組さん（＝年少）の時点であつたら、……その子（の）気が済むまで付けておいてあげて、活動に支障がなければね、「もうどうかな。」と語りかけたときに彼女がとって、それで満足できるのか、とかいろいろ考えていたんですけど。やっぱりその子の気持ちを、先生がちょっとひざにとって（＝抱いて）でもいいから、聞いてあげる時間があつたら、違った顔を見せるかもしれない。なんで階段を下りて逃げていったのかなっていうのも私の1つ疑問なんだけれども。そういうところで、先生の対応のしかた1つで、また違ったその彼女の行動が見られたような気がするし、次の活動にも変化があつたような気がします。
- ……よっぽど盛り上がっているときは、やっぱり日常の保育を変えたいということも必要だと思う。計画（していた活動）を次の日にして、この遊びを続けていくと……保育者のそういう、計画を……変えていくっていう、柔軟性っていうのも必要……。

子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする

- 次の活動に入るときに、（子どもたちが）いろんな遊びをしていたことを、（他の）子どもたちの前で公表して「○○ちゃんと○○ちゃんはこんな遊びをしていてこんな物を作りました。」とか「これとこれをしていたら、今日は草の葉っぱでジュースを作ったらこんなでした。」とかそういう子どもたちの工夫とか、とっても盛り上がっていたものを全員の子どもたちに伝えていくっていうこともしています。
- 「今はちょっとここまでしかできないけど、続きはまた給食の後やろうか。」とか「明日もっと違う材料を用意しておくから、またもっとこれにバージョンアップさせて、何か作ろうか。」とかそういうふうな、子どもたちが期待をもてるような……言葉掛けを……してあげると、子どももちょっと心の切り替えがそこでできて、「じゃあ、今はお片付けしようかな。」とかそういう気持ちになれるので、やっぱり子どもたちが（＝に）ただ「さあ、お片付けしましょう。」だけではなくて、次の行動に移りやすいような、そしてまたこの遊びが「明日もできるんだ。」とか「また給食の後もできるんだ。」とかいう期待をもたせるような……言葉掛けをしながら、「でも今はちょっとね、給食の時間になっちゃうからお片付けをみんなで行うか。そしておいしい給食をたくさん食べて、そしてまたそれから力をたくさんつけて遊ぼうか。」とかそういうふうなかたちで、子どもたちがお片付けの活動ができるよう言葉掛けをできるだけ心掛けています。
- 組（＝年長）の場合は、本当に様々な遊びをしていまして、だけど……本当に盛り上がっているところで、盛り上がっている遊びをポンと切らなければならないときがあるんですけども、そういうときはやっぱり「自分たちで次に遊びやすいような片付け方を工夫してごらん。」って言うのと、すぐ手が届くところに物を置いたり……「次にこれをじゃあ先生用意しておいて。」って（言ったり）、……もっと深めようという言葉が出てくるので、「じゃあ次は車のタイヤができるように……準備しておくね。」とか、……次の活動に入るためにはこれが必要だってことを子どもたちから聞き出して、そして片付けています。

片付けの時間までに子どもが十分満足いくまで遊べるようにする

- やっぱり子どもたちがどの程度……一人ひとりが満足した（か）、……遊びこんだかってことによっても、自発的にお片付けをしようという気持ちが違ってくると思うんですよ。先生は……単に時間だからみたくかたちで、お片付けをしようと呼んでも、子どもはやっぱり……まだ遊び足りない気持ちがあると、なかなかお片付けっていうふうには、その動作にこう移っていかないんですけどね。自分がある程度、今日はすごく満足した、遊びこんだってなると、結構私たちが（＝の）そろそろお片付けしようかっていう言葉掛けにも、子どもたちも反応してくれて、じゃあみんなでお片付けよう、というかたちになるんですけどね。
- ……満足いくまで遊ばせてあげる、そういう時間のゆとりがあればいい……。

片付けを遊びの一部としてできるようにする

- 3歳児は、まだ……生活習慣が完全に確立されていない時期なので、「お片付けしましょう。」って言っても、今のDVDじゃないけど、片付けられなくて、っていう子がやっぱり何人か見られるので、片付けも遊びの一部として私はとらえていて、「じゃあ拾いっこ競争しようよ。」とか、「今度はお片付け競争だよ。誰が……たくさんもってこれるかな。」とかそういうふうにするので、子どもたちも片付けが苦痛じゃなくできるように言葉を掛けて、関わりをもっているんですが……。……お片付け競争じゃないけど、遊びにすることで、子どもたちも今だんだん身に付いてきているかなっていう感じで……。……（競争が楽しすぎて）最後まで片付けていて、今度お入りに間に合わないくらい頑張る子もいたり、そんな感じです。
- あとは、（5歳児では）種類別に分けて片付けましょう（など）……問題（＝ゲームになるような課題）を提供して片付けを始めると、とても喜んできれいに片付けたり……。競争心の中でやったりなんかしますし……。

（＝）：筆者の言い換え （ ）：筆者の補足 ……：略

いう保育者の実践知がうかがわれる。

「片付けを遊びの一部としてできるようにする」という概念に分類された語りにおいては、特に「片付けも遊びの一部として私はとらえていて」「遊びにすることで、子どもたちも今だんだん身に付いてきている」という言葉に象徴的にあらわられているように、片付け自体を「遊び」として楽しめるものとなるよう工夫するという保育者の実践知がうかがわれる。片付けをどのような遊びにしていけるか、その工夫のしかたは、子どもの年齢に合わせて行っていくという実践知もうかがわれた。

3. カテゴリー「次（明日）の活動への期待をもたせる」に分類された保育者の語り

カテゴリー「次（明日）の活動への期待をもたせる」に分類された保育者の語りは、表5の通りである。

「次の活動（魅力的な物）を提示する」という概念に分類された語りにおいては、特に「次の活動がこんな楽しい活動なんだってことを、ちょっと子どもたちに言うことによって」という言葉にあらわれているように、片付けの時間後の活動を魅力的なものとして提示し、子どもたちが次の活動に期待をもち、それを楽しみに思うことで、気持ちの切り替えができるようにするという保育者の実践知がうかがわれた。

4. カテゴリー「片付けが行われていることの気付きを促す」に分類された保育者の語り

カテゴリー「片付けが行われていることの気付きを促す」に分類された保育者の語りは、表6の通りである。

「片付けている子を褒める」という概念に分類された保育者の語りにおいては、片付けをしている子どもを褒めることで、それを聞いていた周囲の子どもたちが、友だちのそうした姿に気付き、自分も片付けようと思えるようにするという保育者の実践知がうかがわれた。

5. カテゴリー「子どもたち同士の関係をいかす」に分類された保育者の語り

カテゴリー「子どもたち同士の関係をいかす」に分類された保育者の語りは、表7の通りである。

「仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「お友だちとお友だちをかえしながら、……友だち同士で助けあって片付ける」「友だちとの繋がりをもたせながら」「仲のよさそうな友だちを誘い入れる」という言葉に象徴的にあらわれているように、仲良しの友だちと一緒にできるよう保育者がなかをとりもつことで、子どもが片付けようという気持ちになれるようにするという保育者の実践知がうかがわれる。

「年上の子どもへの憧れの気持ちをいかす」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「お兄さん、お姉さんがやっている動作、姿を見ながら、下の子たちが学んでいる」「私たちが教えるのではなく、子どもたち同士が見て学

表5 カテゴリー「次（明日）の活動への期待をもたせる」に分類された保育者の語り

次の活動（魅力的な物）を提示する
<p>■片付けをして、（その後）次の活動、何か一斉の活動をするような場面ではね、……「こんな楽しいことを今からするんだよ。だから今はちょっとお片付けを……しよう。」というかたちで、……次の活動がこんな楽しい活動なんだってことを、ちょっと子どもたちに言うことによって、子どもたちも、「もっと楽しい活動をするんだから、じゃあお片付けしよう。」というそういう気持ちにもなるので、やはりそういうふうなかたちで、できるだけ言葉掛けを掛ける（＝する）ようにしています。</p>
（＝）：筆者の言い換え （ ）：筆者の補足 ……：略

表6 カテゴリー「片付けが行われていることの気付きを促す」に分類された保育者の語り

片付けている子を褒める
<p>■……（片付けている）子どもと一緒に保育者も（片付けながら）「〇〇君すごい。このところ頑張ってるね。」……。</p>
（＝）：筆者の言い換え （ ）：筆者の補足 ……：略

表7 「子どもたち同士の関係をいかす」に分類された保育者の語り

仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする

- 「○○ちゃん(は)、ここのところをやってくれているから、じゃあ○○ちゃんも一緒に手伝いしてくれると嬉しいな。」みたいなかたちで、やっぱりお友だちとお友だちをかえしながら、……友だち同士で助けあって片付ける。そして、できない場面は、私たち保育者が補うみたいなかたちで、できるだけ関わるようにしています。
- 「じゃあモモちゃんも(○○ちゃんと)一緒に行こうか。」とかっていう(と)、友だちとの繋がりをもちながらの活動になるのってかいていうような。
- モモちゃんと仲良しの友だちを……誘ってあげて、「○○ちゃん、モモちゃんと一緒にお片付けしてみようか。」とか「モモちゃんも○○ちゃんと一緒にお片付けしようか。」というふうに、モモちゃんと仲のよさそうな友だちを誘い入れることによって、またちょっと状況が変わってきたりするかもしれないし……。

年上の子どもへの憧れの気持ちをいかす

- 全員で使う遊具だとか、○組さん(=年長)は積極的にね、こちらが言うのではないんだけど、子どもたちの方から……自主的にね、片付けてくれているような姿を見て、ああ嬉しいなんて、私たちも感じています。そういう姿を見て、また○組さん(=年中)や○組さん(=年少)は「ああいうふう片付ければいいんだ。」とか「そうすると、並べ方が上手くいくんだ。」とかっていうのをやっぱりお兄さん、お姉さんがやっている動作、姿を見ながら、下の子たちが学んでいると、そういうふうなことが集団生活の中の1つの特徴として見られると思います。そういうふうなことを繰り返しながら、本当に子どもたち同士が共に育ちあうみたいな、……私たちが教えるのではなく、子どもたち同士が見て学ぶ。……ってところが、やはりこの集団生活の素晴らしいじゃないかなと思います。また、そう私たちもそうであってほしいなと思います。5歳児さんは○組さん(=年中)や○組さん(=年少)のモデル(のような存在で)……(年下の)子どもはお兄ちゃんやお姉ちゃんに対する憧れみたいな(ものをもって)ね、「僕たちもああいうふうにお片付けできるようになろう。」とかそういうふうなかたちでね、友だちと育ちあう、……お片付け1つ通しても、そういうふうにあってほしいなと思います。
- やっぱり今は、一人っ子って多いじゃないですか。そういうなかで、……本当の血の繋がりがじゃないけれども、……集団の中のお兄さん、お姉さん、妹、弟ってそういう繋がりが自然とできてくる。そういうなかで、いろいろ学びあうものがあるってことは、大切なことかなって、昔はそれが各家庭で出来ていたことかもしれないけど、今はそういうことが段々減ってきているだろうし、やっぱりその集団のよさは、そういうところに1つあるのかなとすごい思います。
- お家だと、お母さん対子ども(の)1対1というか、そういうかたちで何をするにも、お片付けもそうだけど、……お母さんがすべて見てあげないと、というかたちになってしまう、幼稚園だと、お兄ちゃんやお姉ちゃんのやっていることを見ながら、本当に学ぶことができるので、そういう意味で大切だと思います。だからお家では、「あまりお片付けできないんです。」とおっしゃるご家庭もあるんですけど、……幼稚園にくると、逆によく片付けたりなんかして、お家とお母さんにちょっと甘えちゃったりする部分もあるんでしょうけどね。だからやっぱり集団の中で育つということは大いかなと思います。

(=) : 筆者の言い換え () : 筆者の補足 …… : 略

ぶ」という言葉に象徴的にあらわれているように、年上の子どもへの憧れの気持ちをいかしながら、片付けという行為を身に付けさせていくという保育者の実践知がうかがわれた。こうした子ども同士の学びあいこそ、集団生活のよさであると考えられていることもうかがわれた。

6. カテゴリー「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」に分類された保育者の語り

カテゴリー「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」に分類された保育者の語りは、表8の通りである。

「片付けの後の気持ちよさに気付かせる」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「片付けた後はきれいになって気持ちがいいね」「気持ちがいいから、これからこんな活動が

できるんだね」という言葉にあらわれているように、片付けを促すだけでなく、片付け後の気持ちよさを、保育者が言葉にして、子どもに意識させ、片付けの大切さについて実感をともなって学べていけるようにするという保育者の実践知がうかがわれた。

「なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「子どもたちにむしろ問いかけて、子どもたちから、それはいいことなのかどうかということ、聞き出すようなかたち(で)」「なぜお片付けをしなきゃいけないのかって、やっぱり本質はそこになるので、それを子どもと日々の保育の中でやりとりをして」という言葉に象徴的にあらわれているように、片付けの必要性について子ども自身に考えさせることで、子ども自身が納得して主体的に片付けられるようになる

表8 カテゴリー「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」に分類された保育者の語り

片付けの後の気持ちよさに気付かせる

- 後はやっぱり、心っていうかね、……気持ちがいいとか、片付けた後はきれいになって気持ちがいいねとか、……精神的なものと一緒に保育の中でいかして行く場になればと思って、声を掛けていますので、……。
- 片付けることによって次に使いやすいし、……物がちゃんと片付いていると、すぐにどこに何があるかわかる、そしてそういうふうになっていることが、やっぱり気持ちがとてもいいことだということを……子どもたちが、小さなうちから身に付けていってほしいと思うので、私たちもできるだけそういうふう子どもたちが気付けるような言葉掛けをしたりとか、関わりをしたりとか……。
- 組さん(=年少)でも最近2ヶ月過ぎて「トイレのスリッパをちゃんとこうそろえると気持ちがいいんだよ。」と声をかけたことで、もう習慣になっている子どもも何人かクラスの中にいるので……。
- (子どもたちがきれいに片付けられた後)「やっぱり冷蔵庫の中にちゃんとこうやってきれいに片付けられるとどう、お友だち。」と言うと「気持ちがいい。」とか「次に使いやすい。」とかって言う、言葉が返ってくるので、そういうふうにできるだけ……私たちが言葉の掛けをようにしています。
- きれいになったときは、……「気持ちがいいから、これからこんな活動ができるんだね。」っていうことをいつも伝えるようにしています。

なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる

- なるべく私たちが「だめよ。」ではなくて、「どうしたらいいのかな。」とか「そういうのはいいのかな。」というようなかたちで、子どもたちにむしろ問いかけて、子どもたちから、それはいいことなのかどうかということを、聞き出すようなかたち(で)、……できるだけ言葉掛けをするようにしています。……教師側が一方的に「だめよ。」とか「してはいけませんね。」っていうふうな……、否定……じゃなくて、できるだけ子どもに、どうしたらいいのか、どうしたら気持ちよくお片付けできるのか……、お片付けのときはどうしたらいいのか、ってことを子どもたち自身に投げかけて、子どもたちが自ら考えて、……やっぱりお片付けした方がいい(と)。それはどうしてか、じゃあどうして、お片付けしなきゃいけないのか(問うと)、みんながずっと遊んでいたら、ご飯が食べられないと(など)……4歳さんなりに(答えが)返ってくるんですよ。やっぱり次のことが、お絵かきができないとかね、他のこともできないし(など)。だからそういうふうなことに気付かせてあげる。そういうふうなやっぱり言葉のやりとり、投げかけ方が大切じゃないかと思えます。
- 褒めるということもとても大切なんですけど、……ただ褒めるからやるみたいにならなくとも、それもね、難しいよね。……どうして……お片付けをしなきゃいけないのかと、その行為が子どもたちに理解されていないと意味がない。ただお片付けをいっぱいすれば、先生に褒められて嬉しいとか、最初はその段階からでもいいんですけどね、なぜお片付けをしなきゃいけないのかって、やっぱり本質はそこになるんで、それを子どもと日々の保育の中でやりとりをして、「今日はこうだったけど、どうだったのかな。」とかって言うかたちでね、……日によっては……おままごとの中がぐちゃぐちゃだったり、ちょっと私たちが目が行き届かないときがあったりするんです。そうすると「お友だち、見て、今日ね、冷蔵庫の中の物がこんなになっちゃってただけど、どうかな。」とかって子どもに言う、「ああ、それはだめ。」とか……「もつときれいにしなきゃいけない。」と子ども自ら気付くので、そしたら、みんなですすみますよ。こっちが言わなくても競争のように。
- そして、みんなで使った物を……片付けるってことも、もちろん大事なんですけども、自分のね、個人持ちの……物も大切に使うということも、とても大切なので、引き出しの中とか時々見ると、整理整頓できている子と、それからやっぱり物が無造作にごたごたに入っている子もいるので、そういうところも、子どもたちの引き出しとか、そういうのも見ながら、子どもたちと投げかけながらね、「お友だち、引き出しの中はどうなっているのかな。」とかそういうふうなことも言いながら、引き出しの中、そういう自分の持ち物もやっぱり合わせて、ちゃんと整理整頓ができるように……。

一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う

- きれいになったときは、私たちが「ありがとう。」と子どもたちに感謝の言葉を言うし……。

(=) : 筆者の言い換え () : 筆者の補足 …… : 略

という保育者の実践知がうかがわれる。

「一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う」という概念に分類された保育者の語りにおいては、保育者が感謝の言葉を伝えることで、きれいに片付けることは、周囲の人を心地よくさせ、喜ばせる行為であるということ、子ども自身が感じられるようにするという保育者の実践知がうかがわれた。

7. カテゴリー「片付けやすい環境をつくる」に分類された保育者の語り

カテゴリー「片付けやすい環境をつくる」に分類された保育者の語りは、表9の通りである。

「片付けやすい環境をつくる」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「何か箱を用意するか」「かごにその食べ物マークを貼っておくとか」という言葉にあらわれているように、どのように片付けていったらよいか、視覚

表9 カテゴリー「片付けやすい環境をつくる」に分類された保育者の語り

子どもにわかる表示をするなど片付けやすい環境をつくる
<p>■なるべく子どもたちが、片付けやすいような環境、……何か箱を用意するとか、……子どもたちがお片付けしやすいよう分類したマークとか。例えば、食べ物だったら食べ物はここに片付ければ(いいんだと)わかるような、かごにその食べ物のマークを貼っておくとか、そういうふうなかたちで、子どもたちが目で見ても、すぐここに片付ければいいんだなってことがわかるようなかたちに、なるべく……しています。そうすれば、私たちもいちいちここに入れますよとか言わなくても、その絵とかマークを見れば、子どもたちが自然にそこに片付けられるようになる……そんなふうなことを……普段、お片付けの中で工夫しています。</p> <p>■子どもたちがわかりやすいように分類して、片付けやすいようにする……やはり視覚的効果ってすごくあると思うんです。○組さん(=年少)は、まだ始まって2ヶ月ですけど、その表示があることで、子どもたちだけでも片付けが最近進むようになってきているし、……「これは先生どこのチームなの。」なんて、今日もそんな言葉が出てきて、「これはケーキだからケーキの絵を探してごらん。あったあった、じゃあここだね。」とか「おさじのカゴどこだっけ。」とか子どもたちなりに考えて。次の行動に移るために、片付けなきゃいけないんだということが少しずつ少しずつ理解できているのかなと……。</p> <p>■私たち保育者もできるだけ、やりやすいような環境を整えたり……私も普段そんなことを心掛けながら日々保育の中で生活しています。</p>

(=) : 筆者の言い換え () : 筆者の補足 …… : 略

表10 カテゴリー「日々の積み重ねを大切にする」に分類された保育者の語り

繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする
<p>■やっぱり日々の保育の中で、これ(片付け)は毎日の積み重ねですよ。今日やったから明日からすぐできるようになる、ってものではないので、毎日毎日それを繰り返していくことによってね、やっぱり……ひとつの引き出しの中に入れ方にしても、順番よくいれると、次に物がだしやすいということがわかってくるし、子どもも自分が毎日やっていく経験の中で、体得していくことなので、……本当にこういうことは、小さな……毎日の積み重ねによって、身に付いていくものだと思います。</p> <p>■○組さん(=年少)でも最近、……もう(片付けが)習慣になっている子どもも何人か、クラスの中にいるので、繰り返して、こういうことで大切なのだと思う場面が多々あります。</p> <p>■やっぱりそれ(=片付けようという気持ち)はね、3歳児、4歳児の積み重ねがあって、5歳児になってそういうふうな気持ちに段々になっていくことだと思います。</p>

(=) : 筆者の言い換え () : 筆者の補足 …… : 略

的に示すことで、片付けやすい環境をつくり、片付けが子どもにとって負担にならないように工夫するという保育者の実践知がうかがわれた。

8. カテゴリー「日々の積み重ねを大切にする」に分類された保育者の語り

カテゴリー「日々の積み重ねを大切にする」に分類された保育者の語りは、表10の通りである。

「繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする」という概念に分類された保育者の語りにおいては、特に「毎日毎日それを繰り返していくことによってね」「子どもも自分が毎日やっていく経験の中で、体得していくこと」という言葉に象徴的にあらわれているように、片付けが生活習慣として身に付いていくためには、繰り返し行っていくことが大切であるという保育者の実践知がうかがわれた。

IV. 総合考察

本研究では、「片付け」場面の映像を視聴した後の保育者の語りをもとに、片付け場面における熟達した保育者の実践知について考察するということを試みてきた。

第一段階としての語りの分類においては、砂上ら(2009)の分析カテゴリーとその下位概念を参考にした。

砂上ら(2009)の研究で示されていた既存の分析概念のうち、X園の保育者の語りに該当する部分が認められたのは、「子どもの遊びに共感する」「子どもの遊びを受けとめた言葉掛けをする」「次の活動(魅力的なもの)を提示する」「片付けている子を褒める」であった。

新規に設定されたカテゴリーは、「子どもたち同士の関係をいかす」「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」「片付けやすい環境をつくる」「日々の積み重ねを大切にする」で

あった。

カテゴリー「子どもたち同士の関係をいかす」については、「仲良しの友だちと一緒に片付けられるようにする」「年上の子どもへの憧れの気持ちをいかす」といった下位概念が設定された。カテゴリー「片付けの大切さを子ども自身が理解できるようにする」については、「片付けの後の気持ちよさに気付かせる」「なぜ片付けなくてはならないのかその意味を考えさせる」「一緒にきれいにしてくれたことにお礼を言う」といった下位概念が設定された。カテゴリー「片付けやすい環境をつくる」については、「子どもにわかる表示をするなど片付けやすい環境をつくる」といった下位概念が設定された。カテゴリー「日々の積み重ねを大切にす」については、「繰り返し、日々積み重ねることで身に付けられるようにする」といった下位概念が設定された。

保育者に視聴してもらった「片付け場面」の内容が異なること、分析対象としての語りの区切り方が異なることから、安易に比較することはできないが、砂上ら（2009）の研究では認められなかった実践知が多数認められた点はいへん興味深く思われた。前述の通り、砂上ら（2009）は、片付け場面における保育者の実践知は園環境やカリキュラムと関連するものであることを明らかにしているが、そうした意味からも、今回新規に認められた実践知には、X園のカリキュラムや保育方針などが関連しているのではないかと推察された。詳細な考察は、「Ⅲ．研究の結果と考察」に示した通りであるが、全体を通して、子どもに片付けを一方的に強要することを避け、子どもの思いやその主体性を尊重しながら、片付けの大切さを学ばせていきたいという姿勢をうかがわれ、そのための様々な実践知が認められた。それらはおそらく、X園の保育方針に通じるものなのではないかと推察される。

今回は、熟達保育者の「片付け場面」における実践知に注目してきたが、今後はさらに、他の場面における熟達した保育者の実践知にも注目していきたいと思う。

授業に関する実践的知識の成長—熟練教師と初任教師の比較検討—『発達心理学研究』2, 88-98.

- 2) 砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・安見克夫（2009）「保育者の語りにもみる実践知—『片付け場面』の映像に対する語りの内容分析—」『保育学研究』47(2), 174-185.
- 3) 安見克夫・増田時枝・秋田喜代美・箕輪潤子・中坪史典・砂上史子（2009）「片付け場面における保育者の実践知を規定する要因—保育者研修ビデオ視聴後の語りの分析—」『日本教育心理学会総会発表論文集』51, 265.
- 4) 箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・砂上史子・中坪史典（2009）「片付け尺度の開発と保育者の片付けに対する認識の検討—『片付けの実態』と『片付けの目標に関する意識』について—」『日本教育心理学会総会発表論文集』51, 266.

【付記】本論文は、平成23年度大学評価・学位授与機構提出論文に、加筆・修正を行ったものである。

【引用・参考文献】

- 1) 秋田喜代美・佐藤学・岩川直樹（1991）「教師の